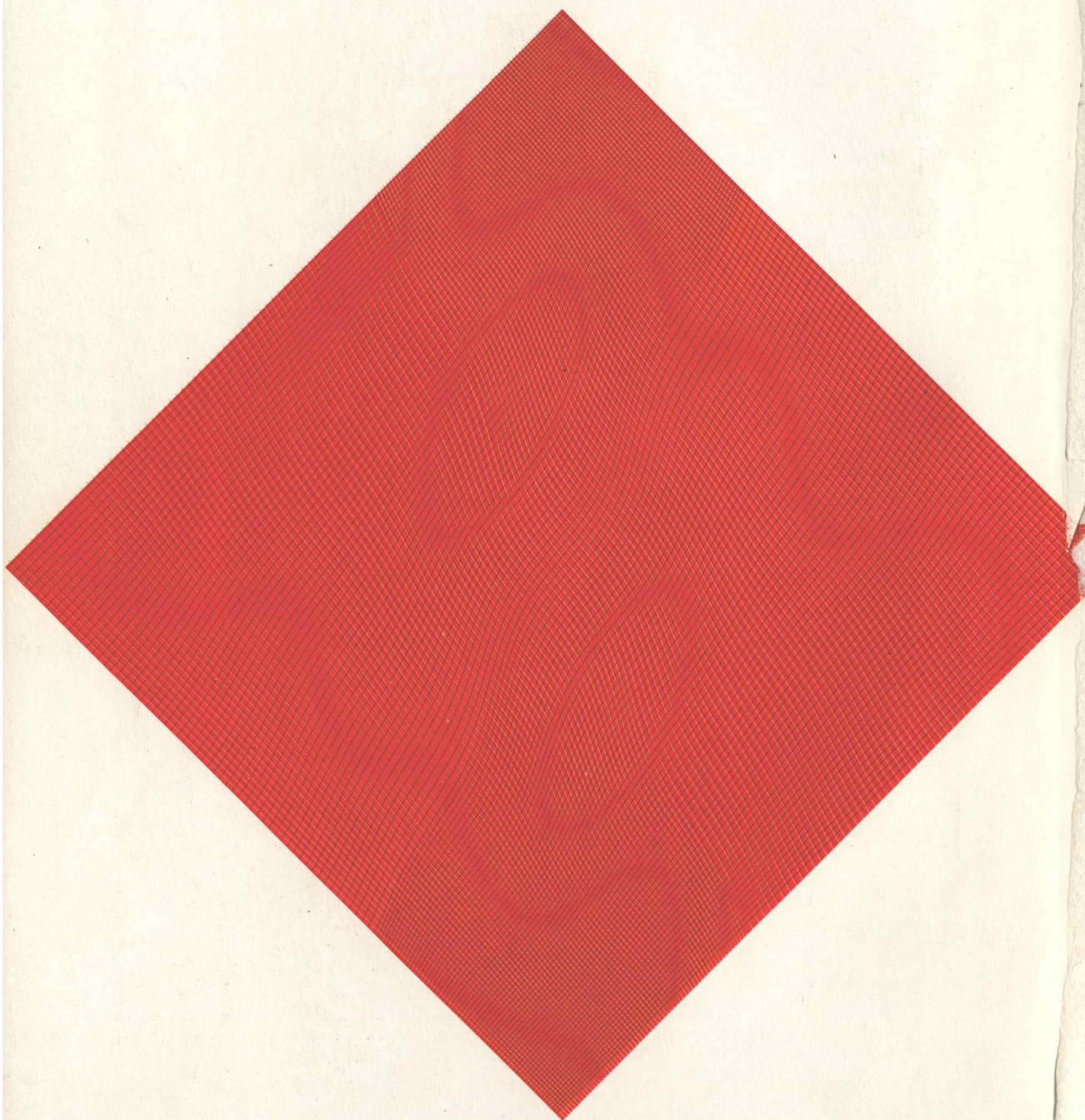


三愛グループ
San-ai

冬 1972 No.69
特集＝記録



記録生命体 真鍋博

記憶は四次元の拓がりをもっている。しかし、記録はまだ三次元である。

人には記憶の混乱もあれば、記録の不確かさもある。

時代には記憶の消失もあるし、思わぬ記録も後の時代に発見されてくる。

人類は記憶を記録し、記録を記憶しながら生きてきていま、記録をただ同じ次元で受け継ぐだけでなく、記録を究め、三次元のもを四次元にする。記録をモニターし、記録を再記録しはじめているのだ。

それは人間エネルギーとしての明日へのデータになる。

しかし、時代と社会と文明の巨大化するなかで、個人の小さな記録が逆に失われはじめている。大量情報化社会は小さい記録を放棄するのだ。

記録が工学的発展ではなく、人間の発展をとげるために、人が生まれて死ぬ——ただそれだけの記録ではなく、そして物がつくられていく記録だけでなく、人の営みの小さい記録を遺さねばならぬ。

未来の記録は、大きい記録と、小さい記録を融合させ、時代の叫びや悲しみや歓びの人間生理をも記録するのだ。

カビくさい標本の記録から、脈搏のある記録へ!!

その時、記録は生命をもつ。止まった記録から生きた記録へ、それは記録の発展というより、記録の変身といえるだろう。





PO W
ESQ UCU
あえあすせた
159 002
ロ〜V₆